

14.貨幣回収準備資金において保有している金地金の有効活用（処置済）

財務本省

1601億9776万円（指摘金額）

制度の概要

- ✓ **貨幣回収準備資金（資金）**は、「貨幣回収準備資金に関する法律」に基づき、政府による貨幣の発行、引換え及び回収（回収）の円滑な実施を図り、もって貨幣に対する信頼の維持に資することを目的として設置
- ✓ 資金において保有している**金地金（資金金地金）**とは、市中から回収した貨幣等を資金において保有して、**貨幣の製造材料として使用するもの**
- ✓ 資金金地金は、貨幣の製造に要する金地金として（独）造幣局に交付することができる
- ✓ 財務省によれば、資金金地金の効率的な管理の観点から、**貨幣の製造材料として使用する見込みがない**などの場合、**資金金地金を売り払うことができる**
- ✓ 資金において保有している**金地金**は、**記念貨幣の製造材料として使用**
- ✓ 令和元年度末の資金における**金地金**の保有量は**129.49 t**、帳簿価額は**2567億889万円**となっており、**資金金地金の額2791億9464万円の約92%**と大部分を占めている

検査の結果

- ✓ 令和元年度末の金地金の保有量は平成26年度当初から**4.54 t 増加し129.49 t**
- ✓ **平成26年度から令和元年度までの6年間のうち交付量は平成30年度の1.78 t が最多**となっていて、令和元年度末保有量**129.49 t**は、同交付量の**72.7倍と相当程度多くなっていた**
- ✓ 資金における金地金の令和元年度末保有量129.49 tは、6年間の回収量、交付量等と比べると相当程度多くなっていること、金地金の使用量（計算値）は、平成9年以降は5年以前と比べて少なくなっていたことなどから、令和元年度末保有量の中には**記念貨幣の製造材料として使用する見込みがない金地金**が含まれると認められるのに、このような金地金を保有し続けていた事態は適切ではなく、引き続き売払いなどの活用の検討に努めるなど、**改善が必要**

当局の処置

- ✓ 財務省は、今後の記念貨幣の製造に必要な金地金の保有量を見極めた上で、記念貨幣の製造材料として使用する見込みがなく売り払うことが適当と認めるなどした**金地金の数量80.76 t**、帳簿価額**1601億9776万円**について、令和3年3月に、外国為替資金特別会計に売り払って**売払代金5420億3148万円**を資金に受け入れ、**同額を一般会計に繰り入れ**
- ✓ 資金における金地金の保有量については、これまでの経緯を踏まえ、必要量の随時見直しを図り、**記念貨幣の製造材料として使用する見込みがない金地金**が生ずると判断した場合には、改めて、**売払いを検討するなどして活用を図ることとした**

14.貨幣回収準備資金において保有している金地金の有効活用（処置済）

財務本省

1601億9776万円（指摘金額）

制度の概要

- 貨幣回収準備資金（資金）は、政府による貨幣の発行、引換え及び回収（回収）の円滑な実施を図り、貨幣に対する信頼の維持に資することを目的として設置
- 資金において保有している金地金は、記念貨幣の製造材料として使用
- 資金地金は、貨幣の製造に要する地金として（独）造幣局に交付することができ、貨幣の製造材料として使用する見込みがないなどの場合は売り払うことができる
- 令和元年度末の金地金の保有量129.49 t、帳簿価額2567億889万円は資金地金の総額2791億9464万円の約92%と大部分を占める

検査の結果

- 令和元年度末の金地金の保有量129.49 tは、平成26年度から令和元年度の6年間における**最多交付量**（平成30年度）の1.78 tと比べ、**72.7倍と相当程度多く**、6年間で**4.54 t 増加**

【平成26年度～令和元年度までの金地金の回収量、交付量及び保有量】

（単位：t）

区分	平成26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
年度当初保有量	124.95	126.20	127.67	129.08	130.37	129.87
回収量	1.95	1.46	1.41	1.29	1.28	1.25
交付量	0.70	—	—	—	1.78	1.62
年度末保有量	126.20	127.67	129.08	130.37	129.87	129.49

交付量最多

72倍

4.54 t 増加

- 金地金の使用量（計算値）は、平成9年以降は5年以前と比べて少なくなっていた

【記念貨幣における金地金の使用量等】

年	記念貨幣名	額面価格	引換価格 及び 販売価格	発行枚数 (A)	記念貨幣1 枚当たりの 量目 (B)	金地金の使用 量（計算値） (A × B)
昭和61	天皇陛下御在位60年	100,000円	100,000円	1,000万枚	20.0 g	200.0 t
62	天皇陛下御在位60年	100,000円	100,000円	100万枚	20.0 g	20.0 t
平成2	天皇陛下御即位	100,000円	100,000円	200万枚	30.0 g	60.0 t
5	皇太子殿下御成婚	50,000円	50,000円	200万枚	18.0 g	36.0 t
9、10	長野オリンピック冬季競技大会（第1次～第3次）	10,000円	38,737円	16.5万枚	15.6 g	2.57 t
11	天皇陛下御在位10年	10,000円	10,000円	20万枚	20.0 g	4.0 t
14	2002 FIFAワールドカップ	10,000円	40,000円	10万枚	15.6 g	1.56 t
16	2005年日本国際博覧会	10,000円	40,000円	7万枚	15.6 g	1.09 t
21	天皇陛下御在位20年	10,000円	80,000円	10万枚	20.0 g	2.0 t
27	東日本大震災復興事業（第1次～第4次）	10,000円	95,000円	4.5万枚	15.6 g	0.70 t
平成30	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 （第1次、第3次及び第4次）	10,000円	111,112円	12.3万枚	15.6 g	1.91 t
令和元、2						
平成31	天皇陛下御在位30年	10,000円	127,778円	5万枚	20.0 g	1.0 t
31	ラグビーワールドカップ2019日本大会	10,000円	111,112円	1万枚	15.6 g	0.15 t
令和元	天皇陛下御即位	10,000円	127,778円	5万枚	20.0 g	1.0 t

平成9年以降

使用量減少

当局の処置

- 記念貨幣の製造に必要な金地金の保有量を見極めた上で、記念貨幣の製造材料として使用する見込みがなく売り払うことが適当と認めるなどした**金地金の数量80.76 t**、帳簿価額**1601億9776万円**について、令和3年3月に、外国為替資金特別会計に売り払って**売払代金5420億3148万円**を資金に受け入れ、**同額を一般会計に繰り入れ**
- 資金における金地金の保有量については、必要量の随時見直しを図り、記念貨幣の製造材料として使用する見込みがない金地金が生ずると判断した場合には、改めて、**売払いを検討するなどして活用**を図ることとした

